



## ○「クリティカルシンキング」

毛沢東による中国の文化大革命で、紅衛兵が掲げた「造反有理」というスローガン。体制に反抗することにはそれなりの理由があり、反乱者こそ正義を持っているという意味にもなります。革命無罪と並び文化大革命の有名なスローガンです。「抵抗権・革命権」といえば、現代社会や世界史で習う近代市民革命(アメリカ独立戦争やフランス革命)に影響を与えたジョン・ロックの考え方です。

造反有理も抵抗権も同じように見えますが、クリティカルシンキング、いわゆる批判的思考の観点に近いのは後者かと思えます。それは、クリティカルシンキングが自分の考えや意見に客観性を持たせるための手法であり、感情や主観に流されずに物事を判断しようとする思考プロセスだからです。クリティカルシンキングでは、「なぜ」「どうして」「本当に正しいのか」といった批判的な問いを持ち続けることが大事です。だから、自分の意見に対しても、「間違っているかもしれない」という批判的な視点を持ち続け、物事の本質を見極めようとしています。

今年の正月に、大学時代のソフトテニス部の同期とオンライン同窓会をやってみました。お互い何十年ぶりのような状況でしたが、体育会系部活動で互いを励まし高め合い4年間を乗り越えた、顔も人もわかっている者同士からなのか、いつものオンライン会議で感じる違和感を覚えませんでした。その同窓会でもっとも盛り上がった話が大学時代の寮のことでした。

私は寮の近くのアパートに住んでいましたが、夜中ストーム【storm】の音が聞こえてくるのがよくありました。ストームとは、本来暴風雨やあらしのことですが、学生寮などで寮生が集団で、寮歌を歌ったり氣勢をあげたりして騒ぐこともします。年末 NHK番組「ドキュメント72時間」のベスト10が放映されていて、北海道大学の自治学生寮である恵迪寮の回がありました。恵迪寮では今でもストームがおこなわれていると知り驚くと同時に、同期の寮生が話していたことを思い出しました。同期の寮生は、特に1回生の頃よく眠そうな顔をして部活動をしていました。寝ぼけながらコート整備をされていてケガをしたこともありました。ある日理由を聞くと、「寮は2人部屋だがドアがない。その意味を先輩に問いかけられ一晩中討論させられた。最後にはなぜトイレにはドアが必要なのか。ドアのない国が世界にはある・・・」というように討論が深まると問いの意味すらわからなくなることがある。明け方空が白んで来る頃には考える力もなくなっている。そんな討論、説教が毎夜だから疲れる・・・」と言っていました。

あたりまえのことをあたりまえとせず問い続ける場の多い学生自治寮での生活。人間的な成長はかなりあったかと想像します。クリティカルシンキングというなかなかいい言葉はありませんでしたが、不条理なことを押し付けられたりもする中で自分の信念を磨き、物事の本質を見極める力を養う意味では、もうひとつの大学教育の場だったかもしれません。監督のいない学生主体の体育会系部活動の世界もそれに通じるものがありました。ただし、建設的で意味のある問いなどではないことも少なからずあったかと思えます。また、ロジカルシンキング、いわゆる論理的思考も十分でなかったように思います。

当時も今も寮費は安く、同期の寮生の一人は、奨学金で寮費や教材費を賄い、アルバイト代を時折親に送金していました。大学のHPを見ると、今でも3食付き光熱費込みで月額3万円もしないようです。今の学生は、バス・トイレ付きのアパートに一人で住むことが大半です。アパートでオンライン授業を受けることも普通のことになった昨今。私が学生時代に学ぶことができて良かったことは何かを、オンライン同窓会等を通じてあらためて考えた年末年始でした。

